

# 能登町・家庭教育委員だより

2024年 2月 能登町PTA連合会・家庭教育委員会 発行

今年度は、町家庭教育委員会学習会を町P大会の講演会と兼ねて、参集型で開催しました。またその様子をケーブルテレビにて配信しました。感想を一部、ご紹介します。

## 令和5年度 家庭教育委員会講演会【能登町 PTA 研究大会講演会】

- ・ 講 師 輪島 裕之 氏
- ・ 演 題 「凸凹兄妹の個育て～貫太くんと楓ちゃんの場合～」
- ・ 講師紹介 金沢市在住の兄妹アーティスト「KANTA&KAEDE」の父  
能登町宇出津出身

### ★「KANTA&KAEDE」

人気アーティストの CD ジャケットを手掛けたり、世界的ファッションブランド「オニツカタイガー」ともコラボするなど、アート活動に取り組み、各地で企画展などを開催している。国内外から注目を集める兄の貫太君、妹の楓ちゃんの兄妹アーティスト。

## ～感想の紹介～

- ・ 大変興味深く、参考になる講演でした。「子」育ては「個」育てであるとの考え方は日頃どのように子供に接し、導いてあげればよいか迷う私に少しヒントをもらったような気がします。子どもはそれぞれ個性・特性が異なるのだから、オーダーメイドの育て方を親が探せばよいので、参考書や様々な情報はガイドラインの知識として持っていればよいのだと感じました。  
輪島さんは、「見立て」から「手立て」の転換をどうするか模索中とおっしゃっていました。「描く」という兄妹の特性を見つけれられたことを尊敬し、応援したいし、私も他人ごとではなく、わが子が自立する「手立て」をどう見つけさせるか。努力が要ると思いました。実体験を聴く機会に参加できてよかったです。
- ・ 輪島先生のお話では、自分の子について、これが自分の子であると認め、信じ、覚悟をもって行動すること、本当に大変だったと思います。今も葛藤中で常にどうしようか考えている。普通って何だろう。みんな普通なんじゃないだろうか。私も否定せずに受け入れて、子どもを信じて任せていこうと思います。ついついダメなことばかり言ってしまうですが、今日の講演を思い出し、頑張ります。
- ・ 輪島さんのお話にふれ、子どもそれぞれに個性があり、いい所、興味のあることに気づいて、応援してあげられる親でありたいなあと思いました。わが子もそれぞれ違うし、私とも考え方・感じ方も違うので、想定外の反応があり、戸惑いますが、私も今まさに渦中で、何が正解なのか、どうしたらいいのか迷い、悩み、日々何とか進んでいます。家庭だけでなく、学校や地域の方々の力を借りて、社会で子どもを育てていけるとありがたいなあと思いました。
- ・ 輪島氏の講演をお聞きし、個の特性を見取り、受け入れ、社会とのつながりを考えることはとても大切だと思いました。子どもたちの遠い未来を考えて、今を関わりたいと、日頃から思っていることとつながりました。



- ・講演では、何か特効薬的なものがあるかと思いましたが、日々葛藤しながら手探りで積み上げてこられた様子が伺われ、安心しました。子どもの特性に応じてその子の強みや得意なことを、親が生活の中で見立て、社会や周りとの橋渡しのサポートすることが大切なのだと思います。正解もなく近道もない中、何よりも今の子どもたちの姿を大切に受け止めている姿勢が参考になりました。
- ・輪島さんの講演は期待以上のもので、子育て、個育て、手立て、ポジティブな思考など、大切にしたいと思うことばかりでした。親も子も家族も日々、それぞれ忙しい中で向き合うことの大切さ、改めて考えさせられました。子どもの「好き」「自主性」「気持ちに寄りそう事」「意志の尊重」も心にとめてともに成長していくことを楽しみにしたいと思います。
- ・子育ては日々、葛藤を抱えながら前に進むものだということが、輪島さんの講演を拝聴し改めて痛感しました。貫太さんと楓さんのご活躍は表の部分であり、裏では、日々どうしようという気持ちでいると聞き、子育ては正解を探す旅のようなものだと思います。親の思いばかりでなく、子の思いをくみ取ってあげたいという気持ちを大切にしようと思います。
- ・記念講演では、「凸凹兄妹の個育て」という演題で、特性を個性ととらえ、日々、子育て（個育て）に取り組んでおいでる輪島さんのお話でした。「毎日びっくりしている」「これからどうしていこうか」「常に壁にぶち当たっている」とおっしゃっている輪島さんですが、親としてできることをお子さんに寄り添った形で常に意識し、行動していらっしやることにとても感動しました。貴重な時間をありがとうございました。
- ・輪島さんの講演では、二人のお子さんが絵の道に進んでいるが、常に迷いがあること、まだまだ子育ての途中なんだということをおっしゃられていて、私も親として共感するところがありました。子どもたちに何をしてあげられるのか、これからも悩みながら、気持ちを伝えあいながら、互いに成長できればいいなあと感じました。
- ・輪島さんの講演は、個の育て方について考えるきっかけとなりました。「その子はその子」という見方、考え方で全員同じようにさせることにこだわらず、その子が好きなこと、得意なことをたくさん見つけていけるようにしたいと思います。いっぱいいっぱいになりながらも一人一人のことをしっかりとみることができる自分でありたいです。
- ・講演を聞いて、「できない子はある」「うちの子はうちの子と腹をくくる」わかっているけど簡単にはできないなと思いました。「自分ができるから、（あなたも）できるでしょ」と自分目線になりがちなので、相手目線になって関わることを心掛けたい。できないことも、その子の個性。自分の理想は押し付けない。
- ・輪島氏のお話の最初に自分のお子さんの漢字の間違いを前向きに公表、訂正されたことにとてもユーモアが感じられました。子どもをよく観察し、良い所を伸ばそうとする姿勢など、多くの見習うべきことを学びました。
- ・宇出津小の取組や講演会を聞き、子どもたちは学校や家庭、地域の皆様との関わりの中で育つと改めて感じました。個々の個性を尊重しつつ、いろんな方の意見を聞いて、子どもたちの未来への手助けができればと思います。貴重なお話、ありがとうございました。

ご感想をお寄せいただきありがとうございました。  
ご意見等は、来年度に活かしていこうと思います。

